

システム要件定義成果物サンプル&ガイド
DS-305：バックアップ要件定義

第1.10版

2018年08月29日

1. 概要

データにアクセス出来ないことによる、機会損失と復旧コストを最小限に抑えるためにデータ保全の観点から実施すべき対策を定義し、実現水準を明確にする。

2. 使途

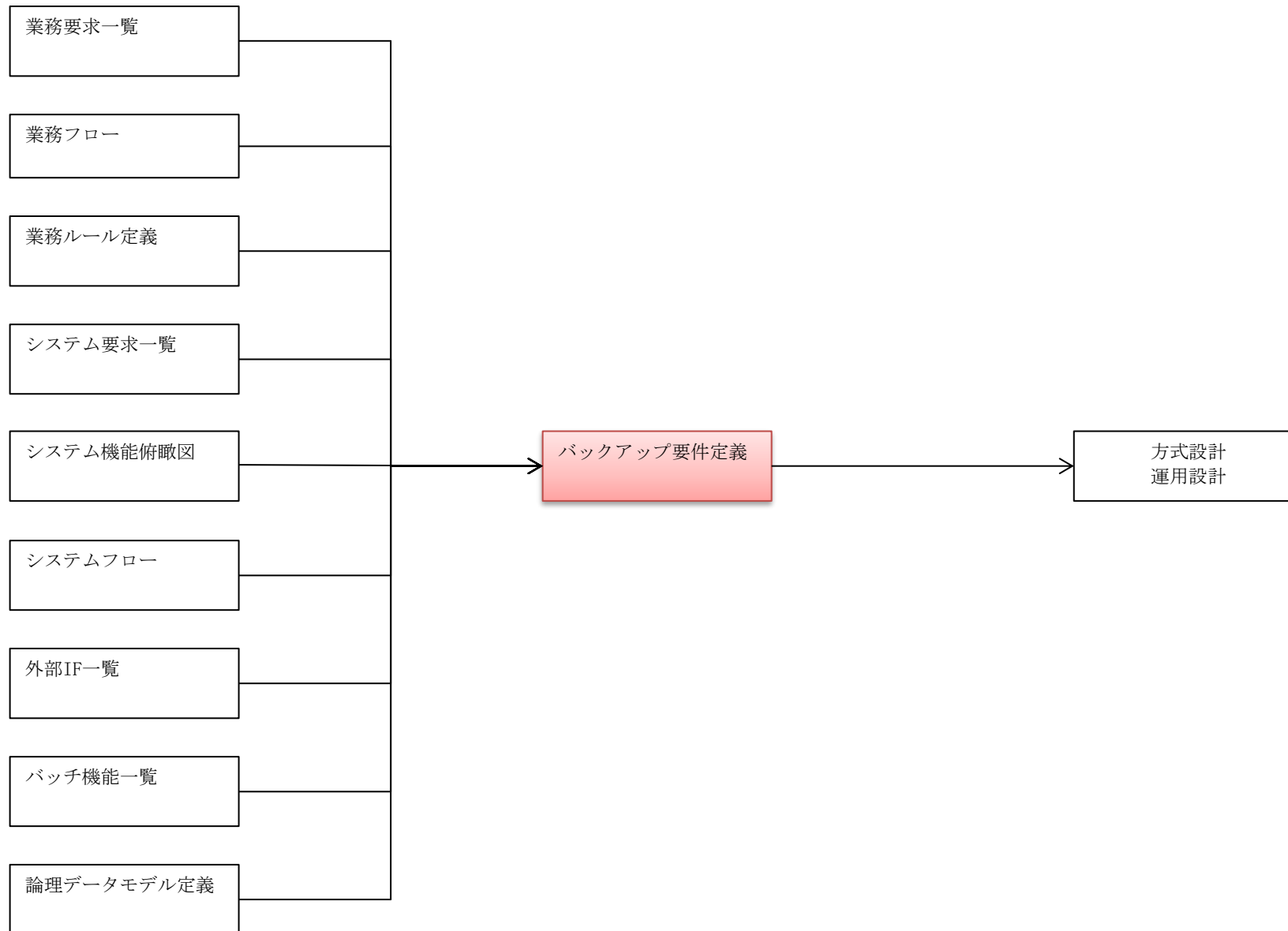
- データ保全の観点からバックアップ要件を決定するにあたり、実現する必要がある事項について指標を設定し方式設計、運用設計のインプットとする。

3. 記入要領

No	記述内容 (SX-XX-XXは、関連するプロセスIDを指す。)		記述内容説明	補足
1	バックアップ	1.1 復旧範囲 S3-06-01	データ復旧範囲は、一部のデータのみとするのか、システムの全データとするのかを記述する。	
		1.2 利用範囲 S3-06-02	バックアップデータをどのように利用するのかを想定して、バックアップ処理の範囲、対象とするファイルを記述する。	
		1.3 自動化 S3-06-03	バックアップに関するオペレーション（スケジュール管理、メディア管理、ジョブ実行等）に関して、どこまで自動化を行うかを記述する。	
		1.4 取得間隔 S3-06-04	RPO（目標復旧地点）、RTO（目標復旧時間）の要件に応じたバックアップ取得のタイミング、取得間隔を記述する。	
		1.5 保存期間 S3-06-05	データ保全という観点でバックアップデータの保存期間を記述する。	
		1.6 バックアップ方式 S3-06-06	バックアップ方式として、オンラインバックアップを取るのか、オフラインバックアップを取るのかを記述する。	RPOに対して実現可能であること。

[IPA/SEC『非機能要求グレード：システム基盤の非機能要求に関する項目一覧』[5]を参考に作成]

4. 他成果物との関係



5. 表記例

1. バックアップ

1. 1. データ復旧範囲

システム内の全データを復旧範囲とする。システム障害から復旧するために、データベース、業務データ（オンライン出力データ、バッチ出力データ）、システムデータ（OS、アプリケーションライブラリ）、ログデータを対象とする。

1. 2. バックアップ利用範囲

バックアップ利用範囲を次の通りとする。

- ・日次業務障害復旧
- ・月次業務障害復旧
- ・情報系業務（DWH）障害復旧
- ・統計情報利用
- ・セキュリティおよびシステムエラー調査
- ・システム復旧（オンライン、バッチ）

1. 3. バックアップ自動化の範囲

バックアップ自動化の範囲を下表の通りとする。

対象	頻度				保存媒体	世代	保存期間
	日次	週次	月次	随時			
業務DB	○				DISK	5	5日
業務データ	○	○			DISK	2	7日
システムデータ				△	TAPE	2	
ログデータ	○				DISK	2	

<凡例> ○：自動 △：手動

←システム構成変更時に手動で取得する。

※バックアップ取得実行の時間制約については、運用・保守要件定義の「1. 1. 運用時間 2）夜間バッチ処理時間帯」を参照の事。

1. 4. バックアップ取得間隔

データベースに対するDBフルバックアップを夜間バッチ開始前、完了後に定期実施。次回フルバックアップ迄は差分ログを取得する事で管理。

夜間バッチ開始前のバックアップは夜間バッチ完了後には削除する。夜間バッチ完了後のバックアップデータはテープへの保存対象とする。

1. 5. バックアップ保存期間

夜間バッチ完了後のバックアップに対して、日次は1週間、月次は12ヶ月、年次は永久を保管期間とする。

差分（ログ）バックアップの保管期間は1ヶ月とする。

1. 6. バックアップ方式

バックアップ方式（S3-06-06）
⇒ サンプル提供なし